

### 人間的成長が強さにつながる

日本を美しくする会  
相談役 鍵山秀三郎

前橋育英高校の荒井監督は考え方が立派ですね。生徒に「君たちがこの学校にいるのは3年しかないんだぞ。この3年間の間に役に立つことだけじゃなしに、その後の人生が長いから、卒業後に役に立つことをこの3年間に身につけていけ」と、そういう主旨で指導してきたと言うんです。人間として成長したかどうか、野球部の生徒たちがそれに一番の重点を置いたというんですね。そうしますと、一年生が入ってきて、二年生、三年生の姿を見て、今の二年生が一年生の時より良くなって、また次の年も一年生が入ってくると年々良くなってくる手応えがあったと言うんですね。必ず甲子園で優勝するとまで言わないけれども、せめて県大会で優勝して甲子園に出て、一回戦ぐらいは勝ちたいと願いを持ったらしいですけれど、昨年は決勝戦で最初に3点取られちゃって、普通だったらいきなり3点取られちゃって、もうこれでダメだと思ってしまうところですよ。ところが、そう思わなかったのはなぜか。それは生徒たちがみんな人間的に非常に成長してたから。だからみんな危機に遭っても、その後もピンチがありましたよね。それを乗り越えてきたのは技ではない、人間的な成長にあったから。このように世の中の流れ、人がこうした方が楽だ、簡単だと思うことと反対のこと、違う方向に行くということは誠に至難なことでありますよね。

【編集後記】みなさん、「SDGs」を耳にされたことがあると思います。もし、子どもから「SDGs」って何と聞かれたら、皆さんはどう答えますか。答えは簡単、「鍵山掃除道」です。SDGsの読み方を変えましょう。Sは「掃除のS」、Dは「できるのD」、Gは「元気な子・人」。つまり、私が考えるSDGsとは、『掃除ができる元気な子、人』が育つ社会環境作りです。どんなに立派な目標を立てても、「達成の有無は人にあり」。環境が人を作り、人が環境を作るんです。自然、社会、経済、家庭環境と多岐に亘りますが、私たちの日常生活と深く関わっています。社会構成員である私たちがまともじゃなかったら、目標は絵空事になります。「人」となるためには、時を守り、場を清め、礼を正す。腰骨を立てる。履き物をそろえる。返事は「はい」。森信三先生の教えを繰り返し徹底することで「人」としての器ができ、教育勅語の12の徳目（孝行、友愛、夫婦の和、朋友の信、謙遜、博愛、修学学習、知能啓発、徳器成就、公益世務、遵法、義勇）を社会全体で育てていくことがSDGsの大本（欧米諸国はこれには大反対でしょう……）掃除をすればきれいになる、ものがきれいになれば大切に使う。ものを大切に使う人は人にも優しく、丁寧に接します。日本人精神の涵養が今ほど大切な時期はないと感じます。掃除ができる元気な子・人を育てるために掃除仲間、便教会仲間の実践は大きいですよ。老若男女、動ける人は積極的に動きましょ。 高野修滋

# 便教会新聞

第166号

令和3年12月

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒四四五一〇八〇二  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
1/F 〇五六三ー五六一四三二七  
携帯 090 - 4215 - 1727

## 『心を磨く』

海部郡大治町立大治中学校  
二年 杉田 莉緒

「掃除をして汚れを取り除くと心まで磨かれるのだな。」とすべての掃除が終わったとき、ピッカピッカになったトイレを見たとき、私はそう思いました。はじめは心も、動かし手先も諦めかけていた汚れがきれいになって輝いている。しかも、私が掃除したんだ。そう思うと心がなんだか爽やかな気持ちになり、同時に言葉では表せない快感に包まれました。私が「掃除に学ぶ会」に参加させていたのは二回目でした。昨年は、偶然もらったチラシが気になって、せっかくだからと友達を誘い、参加したのですが別々の班になり、しかも担当は男子トイレで嫌だなあ、知らない人ばかりだし、止めておけば良かったと思っていました。が、ボランティアの方、保護者の方、何よりも学年が上の先輩方が手を床につけて一所懸命掃除をする姿に圧倒され、一年生一人だからって負けないぞ、と真剣に教わりながら行っていく内にトイレ掃除の魅力にどんどん気づいていき、来年もやってみたいなあと思うようにまですべてしていました。そして迎えた今回、テスト期間中ということも

あり、昨年より参加生徒の数が減っていました。友達も参加しておらず私も迷いましたが、あのとときの達成感と輝きをもう一度味わいたい、と思い参加することを決意しました。前日には、前回の反省を活かし、厚めのゴム手袋、長靴、水分をたくさん持って学校へ向かいました。学校に着くと受付が始まっていて、「とうとう始まるのだな」と身が引き締まりました。受付後、消毒に似たクリームを手になじませました。これは手を菌からバリアしてくれるもので塗ると不思議と見えない何かに包まれたような感覚になります。お茶が一本支給されましたが、自分の水もいただいたお茶も時間がなくて、結局一口も飲むことができませんでした。開会式が始まり、代表の方からコロナ禍でトイレ掃除を学ぶ会で行うのは、日本でたった二校だけということを教えていただき、その二校の内の一校に入っていることが少し誇らしく、頑張ろうと思うことができました。今年の担当は体育館女子トイレ。実際に使用しているトイレなので、どう変化していくのかワクワクしていました。私の班には私を含め二名の中学生、数名の保護者の方、リーダー、サブリーダーの方併せて十名の方がいました。もう一人の中学生は私のクラスメイトの女の子だったので安心しました。道具説明と基

本のぞうきんの絞り方を教えていただきました。道具の中には、昨年使用したものに、こんな道具もあったかなあと使い方を忘れてしまっている道具もありました。ぞうきんの絞り方は右手を奥に左手を前にして赤ちゃんを抱えるように、内側へ絞るのが一番水分を出すことができるよ、と実際にお手本を見ながら教わりました。「では、始めましょう」の合図で始まりました。昨年の掃除に学ぶ会のお陰で、あまり目立った汚れはなく、すぐに終わりそうだなあと思いました。和式便器の洗い方としては大きく分けて三段階、スポンジで水を吸い取り、それから二種類の道具で汚れを取り除きます。簡単そうに見えてこの作業が一番私たちを苦しめました。一見汚れないトイレでも、奥を見ると青いカビのようなものがありました。これがなかなか取れず、激臭と言っているほどの変な匂いがして、個室なので逃げ場はなく、ただひたすら手を動かし続けました。そんな中でも、隣の個室で掃除していたクラスメイトの女の子と励まし合ったり、保護者の方々が「すっごくきれいになったねえ！」と褒めてくださったので何とか無事、ピッカピカにすることができ、リーダーの方に最終チェックをお願いすることになりました。「終わりました。お願いします。」と声をかけると、リ

ーダーの方は目を丸くしてこう仰ってくださいました。「凄ー！よくこんなに頑張ったな、このトイレの水でうがいができるぞ。」この言葉を聞いたとき、頑張った良かった、諦めなくて良かったと思うことができました。その後も班の皆さんと協力し、壁のタイル拭き、床磨きなど様々の掃除を行いました。「人が見えていない部分こそ美しく」を目標に自分なりに納得する掃除ができたと思います。終了間近、自分が掃除したトイレの便器に水を流してみました。ゴォーッといつも通りの音がするのに、私の目に映るトイレは違いました。天窓の光に反射して輝き、ピカピカになったトイレたち。一所懸命に汚れを磨いているうちに心まで磨かれていたのかもしれない、とその時気づきました。掃除をしてゴミを拾った分だけ、あなたが良い運を拾うんだよ。」と代表の方が教えてくれた言葉を胸に、これからも掃除を続けていきたいと思えます。

### 『明日の夢と希望につながる掃除』

海部郡大治町立大治中学校  
三年生保護者 八木 美香

「私は掃除が苦手です。トイレ掃除などもってのほかです。」そう仰る方は少なくないのででしょうか。かく言う私も多分に漏れず、苦手です。それにも関わらず、今回「掃除に学ぶ会」に参加させていただいたのは、トイレをピカピカにすることで、いつも子どもがお世話になっている学校に、ほんのちよつとでも恩返しができるばい

に変えてくれたということは、掃除後に皆さんが見せていた晴れ晴れとした清々しい顔に滲み出ていました。トイレという誰もが敬遠してやりたがらない場所の掃除をみんなで協力してピカピカにする。それは例えば、学校祭でみんなが力を合わせて優勝を勝ち取った時に匹敵するぐらい大きな価値と深い意味があることだと思います。「よし、明日もがんばるぞー。」恩返しのもりが逆に、大きなエネルギーをいただきました。こんな素敵な体験をこれからは是非、たくさん子どもたちにしてほしいと思えます。有り難うございました。

### 『苦手意識の払拭』

海部郡大治町立大治中学校  
二年生保護者 鳥居 佐織

昨年度、初めて「掃除に学ぶ会」に参加させて頂き今回で二度目となります。この行事は、掃除が苦手な私のためにあるようで、本年度も引き続き参加させて頂くことにしました。今回はうれしいことがありました。班リーダーさんが班員に伝授してくださった雑巾の絞り方が、子どもの頃、祖母がしつけてくれた絞り方と同じだったことです。些細なことですが、私は「この絞り方が一番」と思っています。我が子にはあまり伝えていません。しかし今回、リーダーが「この絞り方が一番だよ！」と仰ったことがとてもうれしく、掃除上手だった祖母のことを思い出しながらトイレ掃除をスタートさせることができました。そ

など思ったからです。トイレ掃除に対する抵抗感はありませんでした。便器担当になったときも嫌だなとは思いませんでした。まず、「学ぶ会」の方の掃除の仕方、道具の使い方を一通り教えていただいたから、体育館トイレに入りました。初めて入るトイレはちよつと薄暗い雰囲気、寒々しい感じでした。床に敷いてあるすのこを外すと、尋常ではない量のホコリと砂が現れました。他のメンバーの方がほうきで掃くと、砂埃が舞って、トイレ内がさらに薄暗く曇りました。むせかえりそうになりながら、他の便器担当の皆さんと一緒に、「学ぶ会」の方から便器掃除の具体的なやり方のレクチャーを受け、早速個室に入って取りかかりました。「さあ、ピカピカにするぞー！」私は意気込んで便器と向き合いました。まず、便器の中の水を抜くことから始めます。大きめなスポンジに水を吸わせ、どんな便器に溜まっている水を出していきます。すると、ドブ川のような臭いがしてきました。思わず吐き気をもよおす、あの不快な臭いです。その強烈な臭いはマスクをしていても、容赦なく鼻を攻撃してきます。心が折れそうになりました。鼻呼吸を止め、口呼吸に切り替えることで、折れかかった気持ちに元に戻りました。覚悟を決めれば、後は突き進むだけです。ゴム手袋をはめた手を便器に突っ込み、スポンジでゴシゴシと磨いていきます。難関は便器の縁の裏側です。尿石がこびりつきやすく、なかなか落ちない場所です。しかし、用意してくださった道具を使えば、労せず落ちていきました。薄い網のようなこの道具（サンドメ

して、これから我が子にも自信を持って伝授していこうと思えます。今回、私は便器を担当しませんでした。が、昨年のことを思い出しながら様子を覗かせてもらいました。一緒に掃除をした中学生の女子はスタートからとても積極的でした。文句ひとつ言うことなく、尻込みすることもなく、一所懸命教わり、便器をピカピカにしました。この子たちも喜んでトイレ掃除に参加したわけではないかもしれない。それでも折角の機会、積極的に向でも吸収する姿勢で向き合う彼女たちはとても素敵だなと感じ、自分のすべき仕事にも気合いをもらいました。手洗い場、床、壁、扉など便器以外にも掃除場所は多くありましたが、的確な指示のお陰でどんどん綺麗になっていきました。達成感を得始めた頃、サブリーダーの方が脚立に上り、蛍光灯を外しておられました。ついつい手元ばかりを見て掃除し、自分の視界の中だけ綺麗になって満足してしまっていました。見上げればまだ大切

なところが残っていました。その蛍光灯が綺麗になると、皆で綺麗にしたトイレがより一層明るく綺麗に見え、何事も広い視野を持っていたいものだなど気づかせてもらいました。薄暗かったトイレが徐々に明るくなっていく過程で、同じように気持ちも明るく爽やかになっていくのを感じ、心を綺麗にするというのはいくのを感じ、心に落ちました。掃除が好きという人は、きっとこの感覚に気づいていて気持ちよく掃除するのだろうと、少しだけ近づいたような気持ちになりました。また、子育て中の身としても、自分が苦手意識を持ってい

ツシュ）、カー用品店で購入できるの貴重な情報を得ました。便器本体がきれいになったら、次は水を流すレバーです。銀色であるはずのこのレバー、汚れがこびりついて白っぽく濁った色になっていました。「こういう汚れて、なかなか落ちないんだよなあ。」そう思いながら教えていただいた通りあかすりタオルを巻き付けてゴシゴシ擦ると、汚れはみるみるうちに落ちていきました。面白くなって夢中で擦りました。仕上げに水で洗剤を洗い流すと、輝くような銀色のレバーが現れました。まるで鏡のようです。こうして、担当した個室は見違えるようにきれいになりました。もう臭いもありません。それほど、大きく息を吸い込みたくなるような、清々しい空気に変わっていました。その後、みんなと一緒に床を磨いたり、壁を拭いたりしてトイレは生まれ変わったように美しくなりました。「学ぶ会」の方が天井の蛍光灯まできれいにしてくださいって、最初、薄暗かったトイレ空間がまぶしいほどに明るく変わりました。掃除が終わった後は、まるで大きなミッションを成し遂げたかのような達成感に包まれ、一緒に掃除した皆さんと一種の連帯感のようなものを感じました。他の便器を磨いていた中学生二人は、悪戦苦闘しながらも必死で頑張っていました。掃除後、この上もなく爽やかで晴れやかな笑顔になっていました。「小さなことが明日の夢や希望につながっていく。」指導してくださった「学ぶ会」の方が最後に仰っていた言葉です。「トイレ掃除」という小さなこと。でも、それが私たちの心を確実

ることは、我が子も苦手に導いてしまうだろうと思うと極力好きでいたい。今まで通り、ノルマのように淡々と日々の掃除をこなしては絶対に気づけなかったであろうことに気づかせたい、今までより前向きな掃除ができるようになりました。年末の大掃除が迫るこの時期に気づきを頂けたことも幸運でした。掃除が苦手な人こそ、是非参加してもらいたいです。お世話くださった皆さま、有り難うございました。

### 『学びがいつばい、掃除に学ぶ会』

大治中学校 おやじの会  
安井 健

私は四十六歳、高校一年生と小学六年生の子を持つおじさんです。日常生活で子どもたちに対し部屋の掃除をするよう言うことはあっても、私自身が掃除をすることは年に数回程度です。食器洗いや洗車を行うのですが、掃除に関しては素人です。掃除に学ぶ会』の活動に参加するのは昨年に引き続き二回目です。きれいにする場所はトイレ。誰もがダークでネガティブなイメージを持ち、私のような掃除の素人でなくても少し抵抗がある、ハードルの高い場所だと思えます。我々の班が担当した場所は、見た瞬間『これぞ便所、ザ・トイレ』という感じでした。ざっと水を流してブラシでこする、うわべだけのトイレ掃除ではだめだなと。ネガティブなイメージが現実